

## 第1回 GIAHS 山梨峡東地域ツアーレポート

2023.09.29 実施

報告者:橋本正明(市民科学者育成塾スタッフ)



GIAHS(ジアス):世界農業遺産を皆さんご存じでしょうか。

世界農業遺産(GIAHS)とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域(農林水産業システム)であり、国際連合食糧農業機関(FAO)により認定されます。また、世界農業遺産認定地域は(令和5年7月現在)で世界で24ヶ国78地域、日本では15地域が認定されています。そして一番最近、令和5年7月に日本で指定された3つのうちの1つが今回目指す山梨県峡東です。(参考 URL:[世界農業遺産とは:農林水産省 \(maff.go.jp\)](https://maff.go.jp))

ツアー実施の一週間前には雨の予報、前日には観測史上最も遅い猛暑日となり、当日の天気は一体どうになってしまうのか…。それ以前に出発時間までに全員が揃うのか。祈るような気持ちで当日の朝を迎え、食べ物も喉を通らないまま集合場所の新宿駅周辺に向いました。

集合場所には市民科学研究室のスタッフと今回ツアーの企画を頂き、現地との調整をして頂いた有限

会社リボーン (URL:[リボーン<エコツーリズム・ネットワーク> - サステイナブルツーリズム - 旅を通じて持続可能な社会づくりに協力します。\(reborn-japan.com\)](http://reborn-japan.com)) の壹岐さんが既に到着され、今回の旅で乗車する天ぶらバスと一緒に待機していました。



心配していた参加者全員の集合を確認すると出発予定時刻の5分前、幸先の良いスタートとなりました。新宿を出発したバスは壹岐さんの軽妙なトークで一路、ツアーの目的地である山梨県峡東地域(勝沼・塩山・牧丘周辺域)へと向かいます。

乗車するバスは現在では持続可能な航空燃料(SAF)と競合しているために燃料の確保が難しくなっている天ぶらなどの廃油を加工して製造する BDF(バイオディーゼル燃料)を使用する通称【天ぶらバス】です。さらに詳しく説明される壹岐さんのお話は今後公開の動画に譲るものとして、話によれば排ガスの臭いはよく言われるように天ぶらのような揚げ物であるので、試しに嗅ぐのであれば昼食の前の方が良いとのこと。



そこで私は瀬尾理事と2人で途中の談合坂サービスエリアでの休憩の際に、興味津々で排ガスを嗅いでみました。瀬野理事は撮影担当、私は嗅ぐ担当です(笑)

確かに揚げ物系のニオイと子供の頃に嗅いだ車の排ガスの混合した何とも言えない感じです。朝から何も食べていない空腹の私には胃袋に刺激が…。でもここに白飯を丼で持って来られて食べられるかと訊かれると???

う～ん…。確かに微妙に美味しそうなニオイではありましたが…(苦笑)

中央高速道勝沼 IC を降りてから、現地でツアーガイドを引き受けてくださった峡東地域世界農業遺産推進協議会 (URL:[峡東地域世界農業遺産推進協議会 - ようこそ扇状地に広がる果樹園へ日本農業遺産伝承と進化山梨県峡東地域の果樹農業システム \(kyoutou-giahs.jp\)](http://kyoutou-giahs.jp)) アドバイザーの中村正樹さんを迎え、バスは最初の目的地である澤登ぶどう園を目指します。うねうねと続く急峻な山道をモノともせず、ゆっくりと力強く天ぷらバスは進みます。

途中、斜面に広がるブドウ畑の風景についての車内からの質問に中村さんが判りやすく説明してくださいました。でもどの道をどのように曲がったのか、いささかバスも私たちが迷走気味…。そこで気になったのが、中村さんが今回のような GIAHS を巡るツアーを引率されたのは何回目かということ。訊いてみたら何と、民間のツアーでは私たちが第1号であるとのこと。これはもう、とっても名誉なお話ですね。『一番でよかった!!』



そして澤登ぶどう園 (URL:[無農薬栽培ワインブランドの自然派ロゼワイン!フルーツグローア-澤登@山梨牧丘 | 日本山葡萄ワイン愛好会ホームページ \(jwwfa.com\)](http://jwwfa.com)) に到着したツアーの一行はさらに急坂を登ります。振り返ると峡東の素晴らしい風景が眼下に広がっています(冒頭の写真)。照り付ける太陽が眩しくうだるような暑さになりつつある中、途中途中でたわわに実った自然農法ぶどうの棚を澤登さんに見せて頂きながら、一行はぶどう畑の中、棚にぶつけてしまわないように頭をかがめながらどんどん畑の真ん中へ進みます。

そこでは澤登さんによる自然農法でのぶどうの育て方、自慢のぶどうの試食会とワインの試飲、そしてそれらの販売と進み、一行は最初の訪問地にも関わらずテンションはMAXに近い状態(このペースで廻りきれぬのかな…?)でした。



(澤登ぶどう園にて:撮影:橋本正明)

ほくほくと満面の笑みで記念写真を撮影し、名残惜しそうにぶどう畑を降りていく一行。さあ、次は山を

下りつつ放光寺付近の堰(せぎ)と呼ばれる灌漑システム水路と水車の見学(URL:[西藤木の水車|秩父往還 > 塩山松里 歴史の道を育てた水の路 | やまなし歴史の道ツーリズム Yamanashi Historical road Tourism \(rekishinomichi-yamanashi.jp\)](https://www.rekishinomichi-yamanashi.jp))です。

中村さんによると、この辺一体は標高が高い扇状地に位置しており、山あいから流れ出している川が水源となりますが、扇状地は礫(れき)や土砂によって形成されている非常に水はけの良い土地であるため、限られた水源からの水を有効に扇状地全体に行き渡らせるためにはまず『横(標高に対して平行)に水路を渡す』必要があるそうです。そして急峻な扇状地の斜面を下った水の力は水車を回す動力としても古くから利用されたとのことでした。



(水路の見学:撮影 橋本正明)

実際今回訪問した西藤木の水車は江戸時代末期に創設後、地域の協同水車として用いられ、用水としてだけでなく動力としても活用されてこの地域の産業や生活の向上に大きな役割を果たしてきたそうです。



(放光寺付近の堰水車前:撮影 宮崎晴久) (同左:橋本正明)

そしてこの地域では秋も深まった 11 月頃にはころ柿と呼ばれる干し柿のカーテン(URL:<https://youtu.be/EqqSW8Mr4PQ>)が民家の軒先にぶら下げられ、厳しい山あいの寒暖差を利用した名産品がつくられています。ツアーの日程では残念ながらころ柿のカーテンはまだ見れませんでした。民家の庭先には赤く熟した柿が実りの秋の到来を告げていました。

さて次は勝沼 IC から降りて間もなくの場所に位置する大善寺 (URL:[真言宗智山派 ぶどう寺 柏尾山 大善寺 \(daizenji.org\)](https://www.daizenji.org)) でお待ちかねの昼食です。ここでは世界農業遺産の審査員たちに振舞われた郷土料理の数々を再現した【GIAHS (ジアス) 弁当】として、審査員たちがもてなされた奇しくも同じ場所でツアーの参加者ももてなして頂きました。

このお弁当は勝沼町深沢で縁側カフェ「やまいち」 (URL:[https://youtu.be/p\\_A04Fa6gtg](https://youtu.be/p_A04Fa6gtg)) を営んでいらっしゃる三枝さんが一つ一つ丁寧に作られたもので、数名の世界農業遺産審査員をもてなした時と異なり、今回は 30 名を超える大人数のため、試行錯誤されながら GIAHS 弁当を再現されました (料理の品々についての詳しい説明は後日公開の動画にて)。



(上:GIAHS 弁当、下:三枝様:撮影:宮崎晴久)

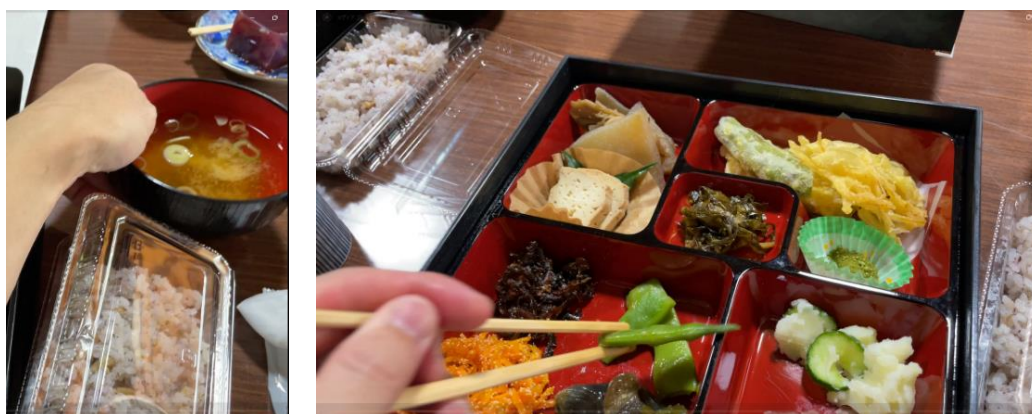
また、この日のこの昼食のために甲州市役所農林振興課の方が応援にきてくださり、会場の支度から給仕、片付けや薬師本堂への階段がづらい方々のための拝観場所への送り迎えなど様々なサポートを行っていただきました。



(箸が止まらない…:撮影:橋本正明)

当然のことながら季節が異なるのでお弁当は可能な限りを再現した上ではありましたが、旬の季節の料理を盛り込んだ豪華なお弁当を参加者の皆さんと舌鼓を打ちました。

ちなみに私は、ちょっと一口食べ始めた途端、その自然味豊かに柔らかで複雑でいて芳醇なその味に私の箸はぐいぐい進んでしまい、気が付いたらあっという間に締めのおどろのデザート【べろべろ】まで進んでしまいました(左下写真)。ちなみに全員分の味噌汁を現地で作るのは至難の業のため、【味噌玉】にして持ち込み、お椀に入れてからお湯を注いで完成させたそうです。ここにも細やかな気遣いと生活の知恵や工夫が見えてきますね。



(食べながらの撮影は…:橋本正明)

一通り食事が終わった頃を見計らって今度は参加者の皆さんの自己紹介の時間となりました。一人当たり30秒目安と言われても皆さんそれぞれに語りたいこと、このツアーに参加した目的や動機など、本当に色々なバックグラウンドや感想を持っていらっしゃる…。

驚いたのは半数近くの方が市民研の会員ではなく、YouTube動画を視た方や会員のご友人などが再募集に呼応して下さったり、上田代表のために…と頑張ってくださいました方々など、いい意味でのサプライズがてんこ盛りの自己紹介の時間となりました。

予定時間ピッタリに食事と自己紹介を終え、ぐっと距離が縮まったツアーの一行はいよいよこのぶどう寺での最大のイベントである拝観を行うべく、薬師如来様の待つ本殿に向かいました。険しい階段を登りきると本堂へと進みます。本堂では井上さんが初っ端からジョークを織り交ぜた絶妙のトークで大善寺の歴史をかたりながらツアーの参加者の笑顔を引き出し、厳粛な本堂の間に緩やかな空間を創り出されま

した。残念ながらこちらのご本尊であるぶどうを持った薬師如来は5年に一度のご開帳(令和5年10月1日~8日)にしかお目に掛かれないとのことで([お知らせ - 真言宗智山派 柏尾山 大善寺 - \(daizenji.org\)](http://daizenji.org))、私たちはお目には掛かれませんでした。薬師如来を御護りしている十二神将がそれぞれ千支の護りも司っており、自分の千支の神将を探してみたり、展示されているぶどうにまつわる所蔵品の数々を見たりするのもまた拝観の楽しみ方の一つであったと思います。

お寺では住職手づくりのワインも販売しており、別名【ぶどう寺】と呼ばれる由縁がそこからも偲ばれますが、何とんでも薬師様がぶどうの房を左手に、ある意味この峡東の地を体現しているお姿がとても印象的でありました。



(阿形像:撮影:宮崎晴久)



(撮影:橋本正明)

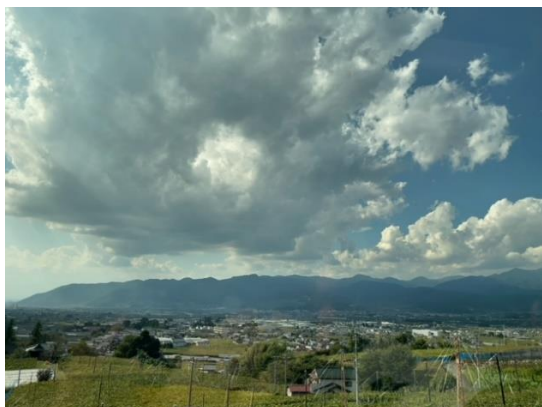
さて、大善寺での楽しいひと時を過ごした一行は、バスに乗り最終目的地であるぶどうの丘へ向かいましたが、途中、壹岐さんと中村さんの計らいでワインぶどう畑へ急遽立ち寄らせて頂くことになりました。山腹の道路わきにバスを止め、スピードを上げて通り過ぎる車に注意しながらぶどう畑に向かいます。ああ…、一番危なっかしいのは上田代表のようですね(マツク…)。

いつの間にか大善寺では私たちが容赦なく照り付けていた真夏のような日差しに雲がかかり、涼やかな風が辺りを包みはじめました。ぶどう畑へと続く細い坂道を登ると草刈りで汗を流している地元の方々が、私たちが屈託のない笑顔で迎えてくれました。

土留めの上に広がるワイン用に栽培しているぶどう畑の中で中村さんから、ぶどう畑の棚が電線を張る技術を応用していること、広く見えるぶどう畑も数本のぶどうの木から構成されていること、狭小な丘陵を利用するためにぶどう棚をせり出して少しでも広い面積を確保する農法やそれを支える支柱についての工法、その伝承の苦勞などについて説明が続きます(URL:<https://www.youtube.com/watch?v=qPG4rgSTvjs>)。

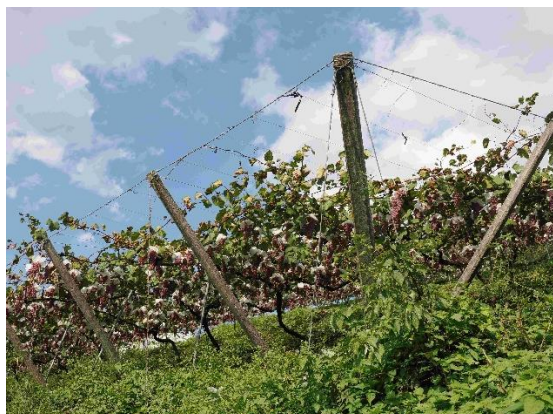
いつの間にか、「笹子おろしという夏でも秋のような涼しい風が吹き抜けるこの地の気候・風土が、甲州ブドウの色付きを深めることにつながっている。」との中村さんの説明に聴き入っている間にさっきまでの微風が段々と強さを増し、私たちの間を吹き抜けていきました。





(撮影:橋本正明)

楽しかった旅ももうすぐ終わりに近づいている…。そんな予兆を感じさせる風でした。



(撮影:宮崎晴久)

最後の訪問先となった【ぶどうの丘】に着く頃には、日差しも陰り風も強くなり始めていましたが、逆にそれがとても心地よく、ワインを楽しむ方、丘からの甲府盆地の絶景を望む方(恋人たちの鐘を鳴らす方…(笑))、短い滞在時間ではありましたが思い思いの時間を参加者の皆さん、過ごしていらっしゃいました。

ぶどうの丘では、土産物のお菓子やワインを購入したり、グラスワインを購入して外のテラスで堪能したりと、短いながらも思い思いの時間を過ごすことができたことでしょう。

ちなみに私は今回の旅では季節違いで見るが出来なかった『ころ柿』のお菓子をお土産に購入して帰宅してからの楽しみとしました。



(撮影:宮崎晴久)

バスの出発前には天ぷらバスの前に集合しての記念撮影を行って、旅の締めくくりに。朝の集合時には比べものにならないくらいすっかり皆打ち解けて、吹きすさぶくらいに強くなった風のなか和やかに何枚も撮影する。そんなみんなの笑顔がとても素敵でした。

勝沼インターの手前ではツアーガイドで終日案内して下さった中村さんとお別れです。何だか久しぶりに会った友人と別れるような名残惜しい気持ちになったのは私だけでしょうか。いや、きっとツアーの参加者の皆さんもまた何らかのカタチでこの地を訪れて、中村さんやお世話になった方々に再会したいと心にしたことでしょう。

夕暮れが迫ってくる中央道をバスは一路新宿へ帰ります。途中立ち寄った八王子の石川パーキングを過ぎてからバスは、渋滞をゆっくり進んでいました。車内ではリボン社がこれまでにやってきたエコツアーの記録が放映されていましたが、辺りを夕闇が包み始めるとさすがに旅の疲れもあって段々話し声も小さくなっていきました…。

新宿の NTT タワーが見えはじめた頃でしょうか。ふと前方を見ると、真っ赤な満月が新宿の向こう側から登ってきました。そう言えばその日は中秋の名月、しかも数年に一度の満月での十五夜とのこと。どうやら周りも満月に気づいたらしく、にわかに車内がまた活気づいてきました。最後の最後に素晴らしい旅の演出になったと壱岐さんがマイクから話しかけると車内に笑顔が広がりました。バスが新宿へ進むにつれて右に左に満月が車窓を入れ替わり、その都度車内で声が上がります。皆楽しそうです。

そしてバスは何と帰着予定時間の18時ぴったりに新宿に戻ってきました(さすが!!)。途中渋滞のことを考えると最後の最後まで驚きずくめのツアーとなりました。新宿駅前バスを真っ先に降りて参加者

一人ひとりに挨拶します。また次の機会もお会いできることを願いながら満面の笑みでお見送りです。そして私と瀬野理事はサシで祝杯と今後のお互いの重要任務の前の氣勢をあげに新宿の街に消えていきました…(とさ)。

私がこのレポートにまとめた内容はこの素晴らしいツアーのほんの一端に過ぎません。

澤登ぶどう園での自然農法の説明や試飲の様子、天ぷらバスや峡東地域の説明、GIAHS 弁当の詳細の説明などの詳しいトークの中身はこの後、市民研動画として後日有料配信されるツアー動画をご覧ください(要申し込み:詳しくは市民研 HP [市民科学研究室 - Citizen's Science Initiative Japan \(shiminkagaku.org\)](http://shiminkagaku.org)にて)。

なお、末筆となりましたが今回のツアーを実施するにあたり、峡東の魅力を言葉で存分に語り尽くして頂いた峡東地域世界農業遺産推進協議会の中村様、峡東の最大の魅力であるぶどうがたわわに実った畑の中で私たちを自然味豊かなぶどうとワインでもてなして下さった澤登様、極力審査委員たちが味わった郷土の味を再現した GIAHS 弁当を前例の無い大人数に苦勞されながらもご用意下さった三枝様、ユーモアを交えながら由緒正しいぶどう寺の歴史と薬師如来様の魅力をご説明頂いた大善寺の井上様、当日大善寺での細やかなサポートでお世話して下さいました甲州市役所農林課の皆様、民間として記念すべき第1回目の峡東地域世界農業遺産ツアーとなったこの企画原案をご提供頂いた有限会社リボン壹岐様、うねうねと続く急峻な山道を巧みに運転して下さいましたドライバーの増淵様、当日撮影されたお写真をご提供頂いた宮崎様に厚く御礼申し上げます。